

ある若者との禅問答（？）：パート I

大学院で学ぶある若者から、次のような実にシンプルな、かつ、厳しい質問メール（抜粋）があった。

【 先生のコットーである「あるがまま」のお考えをお聞かせください。

「あるがまま」といっても努力した結果の「あるがまま」なのか、そうでない場合の「あるがまま」では全然解釈が変わってきますよね。

その両方を差して、如何なる過程・結果に対しても「あるがまま」に受け止めよということなののでしょうか？

疑問に思いました。

また、人間は欲深い生き物ですから、次から次へと欲が出できますよね。

たとえば、試験前でしたら「もっと要領がよかったら・・・」、買い物中でしたら「もっとお金があれば・・・」となるのが自然かと思ひます。

経済的に豊かであっても、より時間や学力が欲しいという人がいれば、時間や学力が備わっていても、経済的に豊かになりたいという人がいます。仮に、両方が達成されても別の欲が浮上してきますからね。

そんなことより、今やるべきことに集中せよということなのでしょうけど・・・。】

一応、取り敢えず次のように返信した。

【 その時々、後悔しないように納得する最善をつくす「あるがまま」であり、自分なりに納得した行動であれば結果がどうであれ後悔しないはずですので、「なるがまま」ということです。

決して、「欲のままに、好き勝手に」ということではありません。

では、何をもって最善と思うかと云えば、「あえて比べず、生きようとする生命を互いに助け合いながら、生きるとはどういうことかを問ひ続けること」です。

「結果が問題ではなく、過程こそが大切」というのは、自らを検証する勇気を伴いながら、こうした思索過程のことであり、正にその過程こそが「生きて行くこと」であり、思索にはゴールはないと思ひています。

参考までに、「雑学BN」の随想等関係（I）P、2001.12.22 .「『あるがまま、なるがまま』の心境（？）」も覗いてください。

その内会って、じっくりと禅問答（？）したいですね(^_^)】

「学問」とは、「学び、問う」と書くように、専門分野以外でもこうして気になることを質問してくる姿勢は、先々頼もしい限り。